

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 確かな学力の向上のための取組を充実させ、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>② 農業に関する専門性向上を図る教育を充実させる。</p>	<p>① 学習意欲を高め学力を定着・向上させる教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>② 生徒会、農業クラブ等の活動を活性化させる。</p>	<p>① 授業におけるICTの活用に関する研修会を実施しアクティブラーニングを推進する。</p> <p>② 組織的な授業改善に取り組み、授業時間数の確保とともに、生徒の基礎学力向上を図る。</p> <p>③ 生徒会・部活動や農業クラブの発表会等への参加を進める。</p>	<p>① 授業におけるICTの活用における成果に基づいた授業を各教科、学科で実践したか。</p> <p>② 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的回答が50%以上となったか。</p> <p>③ 県大会以上の出場ができたか。</p>	<p>① プロジェクタやタブレットの配備により、多くの教員が授業で活用できるようになった。</p> <p>② 全教科・学科で研究授業を実施し、授業改善に関する研修を行った。生徒によるアンケート結果は、設問1、5において評価4及び3の肯定的回答が79%となり、当初の目標は達成した。</p> <p>③ 部活動の加入率は約36%で昨年と同様であった。 ・ライフル射撃部、和太鼓、酪農部、養豚部、教科(造園)が県内はもとより、関東、全国大会において、優秀な成績を収めた。 ・農業クラブ研究班が全国・関東大会出場、フラワーアレンジで全国大会出場、ボランティアスピリッツ賞を受賞等。</p>	<p>① 機器利用者が多くなり、特にプロジェクタは利用できない状況も生じており、さらなる配備が必要である。</p> <p>② 生徒の学習意欲の面では肯定的な回答が41%であり、学力の定着、向上を目指すとともに思考力を深めるため、さらに発展的な授業改善に取り組む。</p> <p>③ 部活動に入部している生徒は、しっかりがんばっている。もっと部活動の加入率が増え参加する生徒が定着するよう、部活動紹介やポスター掲示、新入生の仮入部等への体験を通して新入生が関心を持てるよう工夫する。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>① ICTは道具であり、それをいって何をどう教えるかが重要である。</p> <p>② 経営戦略がなければ農業者になれない。基礎学力をしっかりと付けさせてほしい。</p> <p>③ 中農生の様々な活動・活躍は農業新聞でも目にする。県の中央にある農業高校としてぜひこの頑張りも継続してほしい。</p> <p>(生徒・保護者)</p> <p>① ② 生徒による授業評価で「工夫がある」「分かりやすい」について肯定的な回答が全体で79%と目標を達成したが、学校評価アンケートでは、「基礎学力の向上」「家庭学習の習慣」についての生徒の肯定的回答が35%、43%(前年比1%↑、6%↓)であった。</p> <p>③ 「生徒会・部活動・農業クラブへの参加」「学校行事への参加」についての生徒の肯定的回答は56%、74%(前年比2%↓、同)であった。</p>	<p>① 教室等外の校内Wi-Fi環境整備を行い、実習時のタブレット使用を可能にした。また、過半数の教科でICT活用授業を実施している。課題は、より多くの授業でICT活用を進めることである。</p> <p>② 生徒自身が基礎学力や学習習慣の定着を実感できていないことが課題である。全校生徒が集中して朝学習に取り組む体制づくり(出欠確認時間、検定成果の単位認定等)が必要である。</p> <p>③ 様々な生徒活動で県、関東、全国レベルで顕著な実績を上げることができたが、一部の専門研究部の成果が中心で、授業を含む農業学習全体の成果としては弱い部分がある。</p>	<p>① 授業におけるICT活用を進めるため、研究授業等で実践例を用いた校内研修を実施する。</p> <p>② 体験的な学習の充実を推進するとともに、学校外の学修による単位認定制度の活用、朝学習の改善を進め、生徒の学習意欲を向上させる。</p> <p>③ 専門研究部だけでなく、授業での学習成果が実績につながるよう授業改善を進め、全校の研究発表会を実施し、生徒相互が取組内容を共有できるようにする。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>① 豊かな人間性や社会性を培う個に応じた生徒指導・支援体制の充実を図る。</p> <p>② インクルーシブな学校づくりを推進する</p>	<p>① 生徒一人ひとりの個に応じた生徒指導、教育相談を充実させる。</p> <p>② えびな支援学校と連携した教育活動を推進する。</p>	<p>① 学校生活アンケートによって生徒の状況を把握し、支援体制に結びつける。また、スクールカウンセラー等外部との連携を深めた支援を行う。</p> <p>② えびな支援学校との連携事業を進める。</p>	<p>① アンケートを年2回実施し、生徒の支援に活用できたか。また、スクールカウンセラー等を活用した支援を実施したか。</p> <p>② えびな支援学校との連携活動ができたか。</p>	<p>① 生徒アンケートやスクールカウンセラー等外部機関との連携を図りつつ、今後も生徒の個に応じた相談体制の充実を図る。</p> <p>② えびな支援学校との連携では、授業での連携等の面で内容の充実を図っている。</p>	<p>① 生徒アンケートやスクールカウンセラー等外部機関との連携を図りつつ、今後も生徒の個に応じた相談体制の充実を図る。</p> <p>② えびな支援学校との連携では、授業での連携等の面で内容の充実を図っている。</p>	<p>(学校評議員)</p> <p>① 明るく伸びやかで挨拶のできる生徒が多い。日頃の指導の成果が出ている。「生徒に対する教員の公平さ」の肯定的回答が低い(36%、前年比3%↓)。先生の言葉遣いは注意が必要である(親子ですら難しい)。</p> <p>② 1年間の授業をとおしたコラボまで連携が深まった。いのちと人権を柱に今後も力強く取組を進めてほしい。</p> <p>(生徒・保護者)</p> <p>① 「学校が楽しい」「学びやすい雰囲気」に関する生徒の肯定的回答は67%、65%(前年比4%↓、3%↓)だが、「先生に相談しやすい雰囲気」は49%(前年比同)であった。</p> <p>② 「いのちを大切に作る心の高まり」に関する生徒の肯定的回答は76%(前年比1%↓)</p>	<p>① 個に応じた支援が必要な生徒に対して、必要に応じて外部機関とも連携した組織的な支援ができたが、進路変更の道を選ぶ生徒を更に減らすことが課題である。</p> <p>生徒が落ち着いて学校生活を送る環境が維持されているが、生徒に対する教員の言動が問題となるケースが若干あり、この点の克服が課題である。</p> <p>② えびな支援学校との連携は、授業をとおした日常的なレベルまで高めることができた。</p>	<p>① 生徒の不公平感の背後にある指導のばらつきをなくすため、グループ・学年間の情報共有を強化し、斉一な生徒指導を行なう。</p> <p>生徒が安心して相談できるよう、教員集団の人権感覚を高める校内研修を行う。</p> <p>② いのちの教育を柱に、両校の連携を組織的、計画的に推進する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。 ②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。	①勤労観・職業観を育成するため、産業界等と連携した体験的な学習の充実を図る。 ②生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現を図る。	①インターンシップ、デュアルシステム等の活動を充実させる。 ②「キャリア教育実践プログラム」に基づいたキャリア教育を推進する。 ③進路説明会を定期的に行うとともに、個別指導も並行して行う。	①農業体験やインターンシップ、デュアルシステム等の参加者が充実した活動を行うことができたか。 ②「キャリア教育実践プログラム」を計画通り実施できたか。 ③進路実現に向けた指導が十分にできたか。	①インターンシップの参加者が17名となり、有意義な活動の場を提供することができた。 ②キャリア教育実践プログラムについては、計画通り実施することができた。 ③進路実現に向けた指導については概ね達成することができた。	①今後も参加者が増加するよう生徒にPRしていく。 ②③進路についての考えが定まらない生徒や活動しようとする生徒の対応に苦慮している。保護者とも連絡を取り合う等の対策を行う。	(学校評議員) ①高校卒業後の進路を定着させるためにも体験的な学習は重要である。活用可能な地域資源の開拓をするべきだ。 ②小論文・面接試験対策をしっかりと行なってほしい。 ③学校評価アンケートでは、面談の機会を増やしてほしいとの生徒・保護者の声があり、工夫する必要がある。 (生徒・保護者) ①②③「体験的な学習をとおした農業学習への興味・関心」に関する生徒の肯定的回答は86%(前年比1%↓)、「説明会・ガイダンスの充実」は65%(前年比同)、「面談による意欲向上」は40%(前年比6%↓)	①就業体験参加者は農業体験参加者と合わせ23名と前年度より増加した。受入先の更なる開拓が課題である。 ②③キャリアプログラムを計画通り実施したが、三者面談の完全実施が3学年のみあることや1・2年段階の指導内容を含め、生徒・保護者のニーズに対応できているのか、組織的、具体的な見直し・改善が必要である。	①コンソーシアム地域事業も活用し、地域の活用可能な教育資源の開拓・確保を進める。 ②③実施時期を柔軟に設定しつつ、全学年で三者面談を年1回実施する。また、1・2年段階からの個に応じた指導を強化し、生徒の進路意識・学習意欲の向上を実現する。進路関係書類等の事故ゼロを実現する。
4 地域等との協働	①地域や関係機関等との連携・協働による学校づくりを推進する。	①学校の特色を生かした地域活動に取り組む。 ②地域や関係機関等と連携した学習活動の教育プログラムの開発を進める。	①生徒会や農業クラブ・委員会等による地域との連携・協働活動を充実させることにより、開かれた学校づくりを推進する。 ②コンソーシアム地域事業において、これまでの取組みについて整理を行い、生徒の学びの機会を広げる環境整備を進める。	①地域との協働活動、貢献活動、行事への参加等の連携ができたか。また、地域へ開かれた農場、農業学習の拠点として活動できたか。 ②コンソーシアムの目標設定および具体的な手立てを整理したか。	①地域貢献活動を中心に、学校周辺の美化活動を実施した。 ・部活等の活動では、和太鼓部が地域の行事などに参加して交流を行った。草花部やフラワーデザイン部が、地域のコミュニティセンター等でコサージュ教室やフラワーアレンジメント教室を実施して交流を行った。 ・酪農部の共進会運営補助と酪農教育ファーム活動、農業総合科の学校開放講座(夏野菜の収穫とパスタ作り)等、農業の特色を生かした貢献活動として、地域の拠点となっている。 ②外部機関と連携して生徒の学習機会を拡大するコンソーシアムについて、本校が従来より取り組んできた諸活動の充実を図るとともに、新たな取組として、高大連携・高高連携に向けた具体的な取組を進めた。	①地域貢献の一環で校外清掃を行っているが、生徒が地域に対して貢献活動をしている意識を高めるために、地域だけでなく生徒にも活動のPRを拡げていく。 ②本校生徒のニーズに合い、かつ、単位認定が可能な高大連携及び双方のニーズに合った夏期講習相互乗り入れ方式の高高連携の実現に向け、具体的な企画・運用を詰め、実現する。	(学校評議員) ①中農生の様々な地域との連携・貢献活動に心より感謝している。地域からの関わりを増やすことができるよう協力したい。地元企業との連携を深め、地元中学からの進学者を増やし、地域の拠点としての活動を進めて欲しい。 ②生徒の学習ニーズに応える機会の拡大という視点から、出来る範囲でコンソーシアムの取組を前進させてほしい。 (生徒・保護者) ①「地域に開かれた学校」について保護者の肯定的回答は91%(前年比3%↓)だが、「地域貢献活動や部活動、授業をとおして地域との関わりが深まった」ことに関する生徒の肯定的回答は43%(前年度比1%↓)。 ②「必要な補習・講習(資格取得も含む)がある」ことに関する生徒の肯定的回答は64%(前年比3%↑)。	①本校の地域連携・貢献活動に関する外部評価は非常に高く、関わっている生徒の自己有用感を高めている点においてもその教育的意義は大きい。しかし、生徒自身の受けとめにおいて43%しか肯定的でない点が課題である。 ②高大連携について神奈川県立工科大学と連携協定を締結し、県立高校間連携については海老名高校と夏期講習相互乗り入れについて協議を行い、いずれも平成30年度実施に向けて前進させることができた。また、10月14日に、県教育委員会主催で「かながわ教育月間フォーラム」を本校で実施した。	①生徒間での情報共有を促進するため、全校での活動発表会を実施するとともに、学校HPだけでなく、校内の掲示コーナーを拡充して紹介する等の工夫をする。 ②高大連携の校外講座について、本校生徒の学習ニーズに合った内容にするため、大学側と綿密な協議を行う。県立高校間連携も含め、全校生徒にその内容や意義が十分理解できるよう丁寧なガイダンスを実施する。
5 学校管理 学校運営	①すべての職員が組織的に学校運営に取り組む。 ②地域から信頼される学校づくりを推進する。	①事故・不祥事の防止を徹底し、地域から信頼される学校づくりに取り組む。 ②安全、安心して快適な教育環境の整備を推進する。	①OJTの計画的・組織的展開により事故・不祥事防止に向けた職員の実践力の向上を図る。 ②HPの更新を積極的に行い、スマホ等の携帯端末に対応したHPを作成する。 ③施設等の定期的な点検を実施し、安全・安心な校内環境の整備を行う。	①OJTの計画的・組織的展開により、事故・不祥事ゼロを達成できたか。 ②携帯端末対応版が作成できたか。また、HPの更新が適切に行えたか。 ③安全・安心な校内環境の整備が行えたか。	①年間をとおして組織的、計画的に研修を実施し、事故・不祥事ゼロに向けた取組を進めた。残念ながら生徒の個人情報保護及び生徒に対する教員の適切な言動の点で課題が残った。 ②学校ホームページのスマホ版を完成させた。 ③学校環境整備事業として、保護者・生徒・教職員によるペンキ塗りを実施した。	①課題については、その都度全教職員で情報共有し、組織の課題としてとらえ、再発防止に向けた具体的改善策を立てた。引き続き取組を強化し、事故・不祥事ゼロを実現する。 ②学校ホームページを、本校の発信に係る最重要ポイントとして位置づけ、内容の整理を進めるとともに、より活用しやすいものに改善する。 ③生徒の安全・安心の確保に向け、施設面だけでなく、防災教育を見直し、生徒の防災意識を高める。	(学校評議員) ②募集対策上ももっと活動の発信を積極的に行なう方策が必要である。 ③生徒・保護者の要望にあるトイレの洋式化を進めるべき。 (生徒・保護者) ②「学校HPの充実」に関する生徒の肯定的回答は29%(前年比5%↓)、「配付物やHP」に関する保護者の肯定的回答は71%(前年比5%↓)。 ③「清掃」について生徒・保護者の肯定的回答は31%、55%(前年比5%↓、5%↓)、「防災意識の向上」に関する生徒の肯定的回答は47%(前年比5%↓)。	①不祥事ゼロは達成したが、個人情報関係で2件の滅失事故を起こしてしまった。生徒に対する教員の言動でも課題が見られた。 ②スマホ対応学校HPを完成させた。しかし、HPの内容整理が終わらず、改善が必要である。 ③行政、地域、生徒、保護者とともに災害図上訓練(DIG)を実施したが、通常の防災訓練は内容見直しが必要であり、清掃指導の徹底も課題である。	①事故後に改善したマニュアル励行を徹底するとともに、校内研修により教員の人権意識向上を進める。 ②HP対応できる職員を増やし、より速やかな更新を行なう。 ③各担当グループを中心に、清掃・防災の取組について、組織的に見直し・改善を行なう。